

ランド・デザイン

「国境警備隊宿舎の博物館」Passo Rombo, Italy

設計=ヴェルナー・ショル

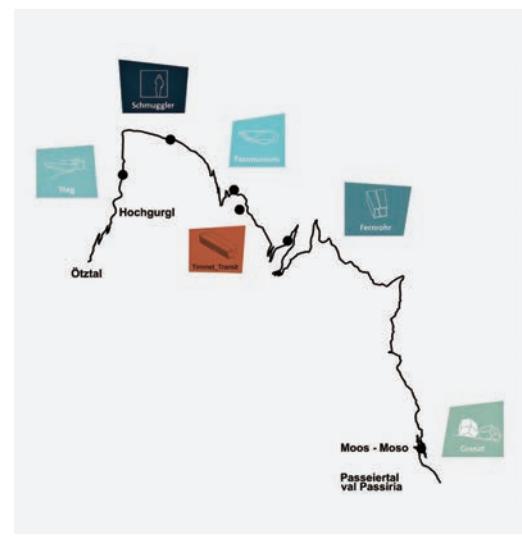
容易に辿りつけない場所で

マルコ・ムラツツアーニ

参照 | 本誌pp.2-9

ティンメル=トランジット宿駅博物館は、ヴェルナー・ショルがティンメルスヨッホ(ロンボ峠)山岳道路沿いに実現した6つのプロジェクトである。2009年から11年に、峠道開通50周年を記念してオーストリア・チロル州とイタリアのアルト・アディジエ州の合意のもと始まった事業計画の一環となる。『CASABELLA』ではこの事業の成果を紹介し(801

号)、道路整備事業と建築に関わる事業の連関を強調してきた。イタリア領側に完成したばかりのティンメル=トランジット宿駅博物館は、ショルが峠道に建てた一群の建築と首尾一貫している。それと同時に、新築の建物ではなく既存物の「再利用」である点で、他とは異なる。これは国境警備隊の宿舎だった建物で、シェンゲン条約締結



ロンボ峠プロジェクト



「望遠鏡」パヴィリオン、2011



ロンボ峠ミュージアム、2009



旧宿舎を護る構造体



メイン・ファサード

に伴う国境開放により不用になっていた。数年間放置され、峠(海拔2,509m)の厳しい気候に晒された建物は廃墟寸前まで傷んでいたが、まさにその条件ゆえに、内部に設営されたロンボ峠の歴史を語る展示の雄弁な「記録資料」になった。

再利用計画は、既存の建物に悪天候から護る手立てを与るために構想された。屋根スラブと旧宿舎のファサードの前面に置かれた斜めの壁で構成された、言わば外套のようなものである。ラディカルな簡潔さを表現した新しいファサードには細い柱が密に並び、ファサードの両端およびエントランスの左右と上部は光と空気を通す開口とされ、そのほかはU字型の縦溝になっている。建設技術は峠道沿いの他のパヴィリオンと同じく、混合砂利を使った着色コンクリートを、破碎木材を使ったOSBの

型枠で現場打ちしている。

この増築により新たなエントランス・アトリウムが生まれ、展示スペースとしても活用できる。周回式の鑑賞ルートはここを起点に、旧宿舎の壁沿いの通路を使った展示に来訪者を導き、中央ホールに向かう。展示システムの方法は無駄がなく効果的である。通路の床板よりわずかに高い位置にエキスパンドメタル・パネルが敷かれ、部屋をつないでいる。このパネルにスチールの支柱を固定し、その上に展示パネルが置かれた。パネルは垂直に設置される場合もあれば、中央ホールのように塗装の剥がれた壁面をデジタル映像の意味深い背景として生かすため、水平に設置される場合もある。

ティンメル=トランジットは、峠道沿いのパヴィリオンやミュージアムを設計し実現する上でチヨルを導いてきたヴィ

ジョンをさらに裏付けることになった。これらはアルプス地方の歴史、地質構造、地誌への参照に満ちた「語る」小建築であり、周囲を取り巻く風景を呼び起こし、それを超越する力を持つのである。

作品:国境警備隊宿舎の博物館

設計・現場監理:ヴェルナー・チヨル・アーキテクト

共同設計者:Andreas Sagmeister

構造・安全:Holzner & Bertagnolli engineering

施工:Gufler, Moso in Passiria (BZ); MetallRiten, Renon (BZ)

建築主:Comune di Mosso, Val Passiria (BZ)

スケジュール:設計 2017年/施工 2018年

規模:面積 215m²/容積 920 m³

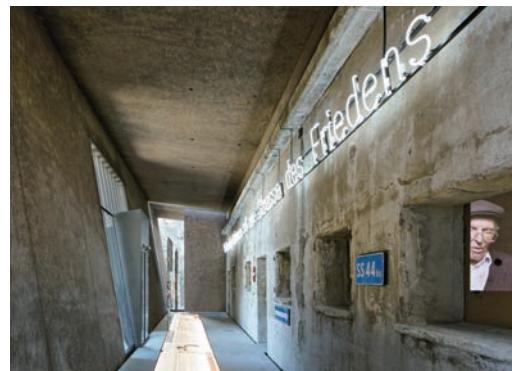
所在地:Strada Passo Rombo – Timmelsjoch, Italy



改修前の旧宿舎



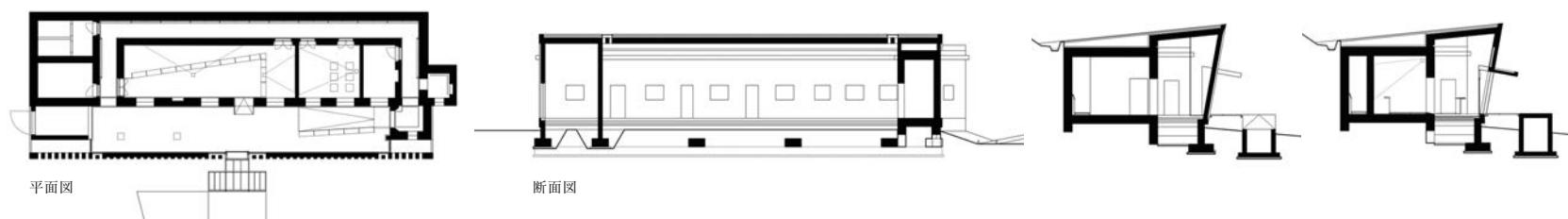
展示ギャラリー



エントランス・アトリウム



中央ホール



無断での本書の一部、または全体の複写・複製・転載等を禁じます。

©2021 Arnoldo Mondadori Editore

©2021 Architects Studio Japan

学ぶ

「H-FARM キャンパス」 Roncade, Treviso, Italy

設計=ZAAザノン・アルキテッティ・アソシアーティ

イノベーションのための30ヘクタール

マルコ・ムラツツアーニ

参照 | 本誌pp.44-69

H-FARM キャンパスという中核的高等教育機関は、トレビゾーの平原に位置し、農村的な性質が目立つとともに、ヴェネツィアとその空港との近さから国際性のある場所に位置している。キャンパスの実現は、デジタル産業における人材養成と起業促進を担うH-FARM社が誕生した2005年に始まる出来事の集大成である。シーレ川の岸辺に建つ改築された共同農園に設立されたH-FARMは、その後もデジタル先端技術の領域で競争力を強化し続け、企業への支援やコンサルタントから教育まで範囲を広げ、小学校から中学校、大学、大学院、さらに学生と専門家のための研究所まで総合的な養成課程を組織した。その国際的に卓越した経験について、『CASABELLA』は2018年(887/888号)に論じた際、ザノン・アルキテッティ・アソシアーティがシーレ川沿いに実現した複数の建築と、新キャンパスのマスター・プランを紹介した。わずか3年後(そのうち2年は諸手続きに費やされた)、30ヘクタールの敷地に広がる、教育のための建物と教育を支援する建物からなる施設は、若い学生たちとさら



配置図



空からの全景

に年若い生徒たちの活気で満ちている。彼らのために構想されたキャンパスは、その設計者たちが長年研究した、逆説の生産性を根拠あるものにしている。すなわち、農村地帯に、本来この地が造形された目的と正反対の性質をもつ、非物質的活動の拠点を置くという逆説だ。

キャンパスの設計案は、H-FARMの建設事業において強化されてきた原理原則と良き慣習を発展させていく。例えば、土地の利用率を削減するため、農村地帯に元からあった、損傷もしくは放棄され歴史的にも建築的にも価値のない建物の大きな容積が活用された。建物の高さを1階もしくは2階建てに抑え、周囲の農地の全貌を視覚的に阻害するものを作らない。また特に、農村地帯の造形を企業の新拠点の「モデル」とみなすことである。こうした目的に沿って、キャンパスを構成する動線と空間のデザインは、農地を分割する幾何学的スキームを反復している。そこで参照された児童用計算盤の単純な形象は、キャンパスを取り巻く風景の随所に認められる——直線(生垣、並木、大通り)、閉じたヴォリューム(森、果樹園)、屋外空間(草原、菜園、耕作地)、隆起と沈降(土手、灌漑用の溝、貯水池)。こうして自然の要素と人工の要素が新しい建造物と調和しながら構成する定住地が規定された。ノスタルジーに訴える視点がまったくないこのプロジェクトは、個人と集団の生活にとって幸福の源となる第一義的役割を自然に委ねている。その意味で、H-FARM キャンパスは現代的なランドスケープの枠組みとなる範例であり、過去の記憶と、環境やサステナビリティに対する社会

的な感性や意識とを一致させる力をもっている。

キャンパスへのアクセス口は東に設けられ、屋外駐車場の近くに建てられたレセプション棟を通って入場する。キャンパスに入ると、車両用道路は不可欠なサービス(物資供給、維持管理、ゴミ排出)に限定され、動線はほとんど歩道となっている。北のゾーンには3つの学校建築があり、それぞれ小学校、中学校、大学講座用になっている。南のゾーンは、既存のH-FARMとHKQAヴェニスの施設群と境を接しており、2つの本部棟(現在も工事中)、食堂と共同洗濯場を収めた温室が付属する学生センター、スポーツ棟がある。木々に囲まれた排水区域の緑地によって分離されかつ接続された建物群は、向き合うように建ち並び、まるで学生たちが通るであろう学修課程を示唆したり、彼らのさまざまな社会関係を表現したりするようである。まさにそのために、キャンパスの中央には多機能センター(リチャード・ロジャースと共同設計)が建ち、オーディトリアムや図書館をはじめ、この共同体の集団的活動に使うおもな空間が付属している。

個々の建物の設計は、特定の機能的プログラムに応答しており、空間と動線の構成の明確さの中でタイポロジーや建築法規の厳格さが薄められている。建設技術、使用された素材、仕上げ、色彩、技術的解は、それぞれの建物に、それぞれに適した濃淡をつけて見出すことができる。構造には、鉄筋コンクリート(現場打ちおよびプレファブリケーション)とスティールの梁と桁が使われた。広いガラス壁により屋内と屋外の視覚的および物理的な連続性

無断での本書の一部、または全体の複写・複製・転載等を禁じます。

©2021 Arnoldo Mondadori Editore

©2021 Architects Studio Japan

をつくり出し、ブリーズソレイユのついたアーケードでファーサードの日射を調整している。太陽光と地熱を利用した電力を広範囲に使い、諸設備は屋内に整然と見えるように置かれている。統一された家具調度は、どの建物の空間も快適になるよう、特別製作されるか、慎重に選択された。こうした成果が、統一され一貫性のある有機体であり、そこでは経済原則と完璧な施工の原理とが一致している。簡潔で質素な建築であり、それと周囲の環境との融合は竣工直後からすでに知覚できる。時間の経過とともにますます含蓄ある建築となることを運命づけられている。その意味で模範的なのが、キャンパスの多様な部分を思想的にも物理的にも連結させる多機能センターである。これは一種の橋として着想され、設計されており、草地として目論まれた2つの傾斜面が地表から屋根の高さまで徐々に立ち上がる。その屋上の展望台からは農村地帯のパノラマが楽しめるほか、天候が良いときには、ヴェネツィアのサン・マルコ広場に聳える鐘楼の塔を遠くに望むことができる。ひとつの場所と、H-FARMとそのキャンパスからインスピレーションを得た世界との、あるべき関係性を表わす予想外であるがじつに雄弁な光景と言えるのではないだろうか。

作品:H-FARM キャンパス

マスター・プラン:ZAA ザノン・アルキテッティ・アソシアーティ

設計:ZAA ザノン・アルキテッティ・アソシアーティ/多機能センター

—— RSHP – Rogers Stirk Harbour + Partners,

ZAA ザノン・アルキテッティ・アソシアーティ(共同設計)

構造:Studio di ingegneria RS srl

設備:Manens-Tifs spa, DBA progetti spa

ランドスケープ:ZAA ザノン・アルキテッティ・アソシアーティ

環境アセスメント:ALIA ss | 水圧適合性評価:Aequa Engineering srl

インフラストラクチャー:Sinergo spa | 音響:Manens-Tifs spa

BIM:DVA DVisionArchitecture | 現場監理:DBA progetti spa

アーティスティック・ディレクション:Mariano Zanon

施工:Carron Cav. Angelo spa

建築主:Fondo "Ca' Tron H-Campus" – Finanziaria Internazionale

Investments Società di Gestione del Risparmio spa

スケジュール:設計・施工 2016-20年

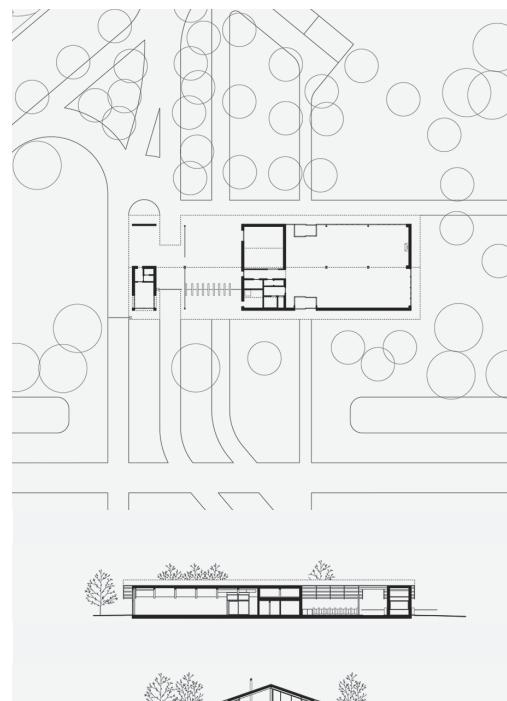
規模:敷地面積 30ヘクタール/

延床面積 27,000m²/容積 94,000m³

所在地:Roncade, Treviso, Italy

[1] レセプション棟

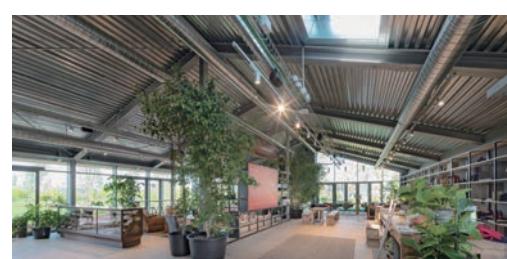
参照:本誌 pp.48-49



平面図/断面図



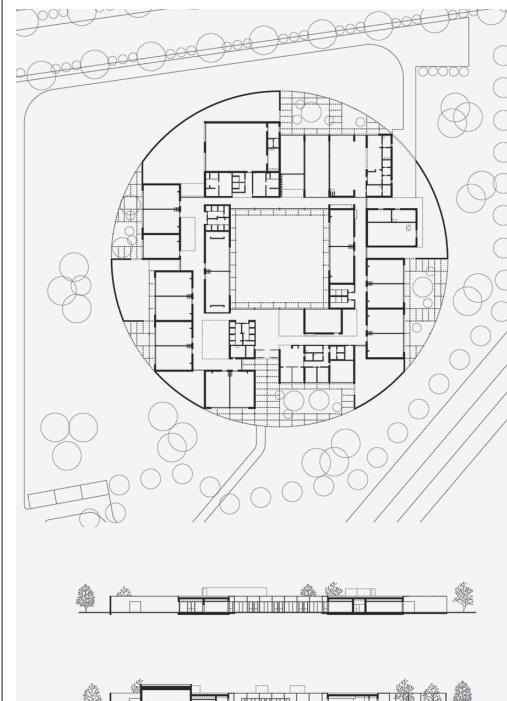
正面ファサード



レセプション・スペース

[2] 小学校

参照:本誌 pp.50-52



平面図/断面図



全景



エントランス廻り

無断での本書の一部、または全体の複写・複製・転載等を禁じます。

©2021 Arnoldo Mondadori Editore

©2021 Architects Studio Japan

「ポッコーニ大学新キャンパス」Milano, Italy

設計=SANAA/妹島和世+西沢立衛

ミルクの滴のように カミッロ・マーニ

参照 | 本誌 pp.70-87

2017年に『CASABELLA』誌は、当時まだ建設中だったSANAAによるミラノのポッコーニ大学新キャンパスのプロジェクトを取り上げた(872号)。工事が完了して学生がキャンパスに通い出すと、その建物もまた周囲の住宅地に溶け込み始めた。都市全体にとってこのプロジェクトが帯びる象徴的重要性は明白であり、『CASABELLA』誌は現

地に再び足を運び、イタリアで最も規模が大きく最も評価の高い文化機関のひとつの拡張計画を完成させた、この素晴らしい建築的介入の成果を読者各位と分かち合うことにした。

新キャンパスが建っているのはミラノ牛乳工場の跡地で、19世紀に造られた異種混交的な地区のうち、ラヴィツア公園および外環道と境を接する位置にある。この変革プロセスは土地の購入と、国際設計競技の開催決定によって始動した。ポッコーニ大学にとって国際設計競技の開催は予期していなかったが、初めての事例でもなかった。この選択により、ポッコーニ大学が学生を学びに誘う場のクオリティを表現する手段という建築に求める象徴的

な価値と、設計競技に求める最も興味深い提案を選び出すための実践的手段という価値とが明確になった。

2012年に、審査委員会は日本の建築設計事務所SANAAの勝利を決定した。SANAAは、権威ある世界の建築設計事務所の中でも、提案のラディカルさにおいて抜きんでていた。この当時、SANAAは別の大学キャンパスを完成させつつあった。ローザンヌ連邦工科大学内のロレックス・ラーニング・センター(『CASABELLA』790号、2010)である。このスイスの作品では、建物群が都市郊外の広い庭園の中に挿入されたのに対して、ミラノの場合は、大学の建物が周囲の街並みの壁に合わせて配置される都市型キャンパスが、はっきりと打ち出された。そこで



空からの全景



キャンパス内から施設群を見る



街路より見る



キャンパス内の公園より見る



キャンパス外周部

無断での本書の一部、または全体の複写・複製・転載等を禁じます。

©2021 Arnoldo Mondadori Editore

©2021 Architects Studio Japan